

1 自己評価及び外部評価結果(2階)

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット／2階)

事業所番号	2794300059		
法人名	株式会社 日光ハウジング		
事業所名	グループホームひかり幸町		
所在地	大阪市浪速区幸町3-7-25		
自己評価作成日	令和6年9月6日	評価結果市町村受理日	令和6年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGBビル大阪 4階		
訪問調査日	令和6年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症と診断されても「人」として当たり前の暮らしに焦点をあてたケアに取り組んでいます。生活リハビリやレクリエーション等各フロア毎に実施し、入居者様のハリや楽しみ、筋力低下等の緩和に努めています。行事やレクリエーション、生活リハビリ等を通じて入居者様が自身の暮らしを自身のペースで自発的に過ごして頂ける為にはどのような援助や工夫が必要かを家族様の意見も踏まえて話し合い、その取り組みの過程を重視する事で職員の成長にも繋がればと思っています。毎月全体会議後にテーマ別に勉強会を実施し、未だ続く感染症やいつ起こり得るかも知れない災害時に備えた訓練も今後増やしていきたいと考えています。協力医療機関との連携はもとより、その他精神科、歯科等連携し情報を共有することでより迅速に必要な医療が受けられるよう支援しています。運営推進会議では入居者様の状況、行事や事故報告等を行い、参加者が意見交換し易く交流の場(座談会のような)となれる様アットホームな雰囲気で開催しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 2階

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人」としての想いを大切にし互いに信頼しあい笑顔で快適に過ごせる生活の場。}というひかり幸町独自の理念を掲げ、各フロアの目に付く所に設置している。新入職員研修時には必ず理念から説明を行い、また日頃より必要時には投げかけ共有し実践に繋がられるよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの夏祭り、敬老会、ふれあい喫茶地域の祭り、地蔵盆、親睦会など保育所や近隣、町会と交流を図っている。また、花見や大阪マラソン沿道応援などで多くの方と交流が持てる様努めている 回覧板も回ってくるため地域の情報を共有している。介護川柳大会にも毎年参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談等看板やのぼり、チラシでお知らせし、気軽に訪ねて来てもらえるよう周知を図っている。また、気になる方や、お困りの様子の方をみかけるとお声かけし必要時には適所へ連絡を取ったり等の支援を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者および職員の状況、事故報告、行事報告、取り組み等の報告を行い参加者様からの要望や意見を取り入れながらサービス向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区のケースワーカーに定期的にケアプランの提出や相談をしたり、社会福祉協議会の各担当者とは連携を図り協力関係を築いている。また、大阪市のポイント事業にも登録している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実地指導の際に玄関は施錠するようにとの指示があった。しかし、日中は外階段を開口し、風通しを行い、天気や季節感を感じて頂けるようにしている。身体拘束においては3か月に1回以上の適正委員会を開き年2回以上の勉強会や伝達研修を行い、職員全員が正しく理解し拘束拘束0のケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症高齢者虐待のビデオ視聴や勉強会、ホーム外研修への参加等ホーム実施している。また、日頃無知である事から出てしまう何気ない言動・対応においてもその場ですぐ忠告・指導をするよう心がけている。ホーム内に9か所カメラを設置している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム外研修において学ぶ機会を持ち、管理者と各階介護支援専門員は個々の必要性を見極め、関係者と話し合い支援に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をかけ、解りにくい文言や質問等を伺い、納得・理解して頂けるよう説明を行っている。また、改定・解約の際は速やかに通達し、了承を得、改定の際は同意書を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の機会であったり、日頃から何気ない会話の中で入居者や家族様から伺ったりしている。なかなか言いにくい事などは意見箱も玄関に設置し、運営に反映できる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー・ケアマネ・管理者で行う三者会議並びに職員、本部を交えての全体会議各フロア会議、またその都度個別面談を行い、全員が意見や提案を出し合えるよう働きかけ改善できるものから実行している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績・勤務状況などの評価を行い、年1回の給与ベースアップや年2回の賞与査定、その他本部からの一時金(品)等やりがいに繋がれるよう努めている。また、定期的に就業規則や処遇改善の見直しを図ったり職場環境の整備にも力を注いでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでの勉強会に加え、認知症介護実践者研修をはじめ法人内外の研修に積極的に参加を促すことで、職員一人一人のスキルアップに努めている。また、資格支援制度を設け、働きながら資格取得できる様、シフト調整や資金援助も行っている。OJTシートを作成し、新人研修に役立てている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモートにて他の施設、グループ内施設への研修会を通じて交流を図り、取り組みや、事例検討、計画書作成など様々な意見交換をしている。 また、昨年度より同業者の横の繋がりを重視した交流会へ参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様やCM等からの情報収集を行い、ご本人様との面談の際には、表情・仕草・会話の中で理解するように心がけ、入居時には安心して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること、不安や要望等をできる限り理解し、安心して頂けるような関係性を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで過ごされていた環境に近づけるよう努め、面接時の内容をもとに必要であることのご提案やご要望にできる限り対応するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、過ごしていく中でご本人様の経験や知識を教えて頂き、信頼関係を築けるよう心がけている。また、ご自身でできることは出来る限りして頂いている。目上の方であることを常に念頭に置いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様のご様子は、お便り・電話等でお伝えし、ご家族様と共に支援できるよう心がけている。感染症の対策のため面会が難しい状況の場合はメール等も利用している。ご家族様にしかできない役割という事にも理解して頂く事で協力できる関係性を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症拡大時には面会が難しい状況となることもあるが、感染状態が緩和されている時等には、感染予防を徹底し、時間を決めて面会ができるよう努めている。また、認知症状や環境面で人間関係が疎遠になっている方が多いが、関係は継続するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状・身体の状態・性格により関わりを持つことが難しい状況もあるが、面倒見の良い方との席の配置や環境を変えたり、職員が間に入ることで関わりを持ち、孤立しないよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や特養など医療系の施設へ転居また、看取りにより亡くなられた等の理由で契約が終了した後もなお電話や手紙のやり取りを行い相談や励まし等支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人様の発言・表情・行動について観察・記録し、思いを理解するよう努め、職員間で共有している。 また、ご家族様や知人の方にも情報をお聞きする事で把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様・病院・CM等からの情報をもとに、日々の生活の中の様子や会話の中で把握するように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日二回、フロア内・他階との申し送りを行っている。訪問看護では、精神面・身体面と気になることについては、報告等に努めている。フロア内では、一人ひとりのペースで過ごして頂けるよう支援し、各入居者様の小さな変化・気づき等、その都度、申し送り・情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の言動から現状や課題を把握し、ご家族様との相談やご意向に沿えるよう、職員・医療関係等と話し合い、介護計画を作成している。日々の振り返りとして毎日行動実施表の記録を行い、各職員が意見やアイデアを出しやすいよう努めている。また、それを基にモニタリングを行い、介護計画に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報等は申し送りノート、口頭での申し送りで共有している。 各入居者様については、場面状況を正確に記録し、介護日誌・行動実地表等から実践・結果、職員からの気づきや工夫を取り入れ見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の要望により、訪問リハビリ・就労継続支援B型等を取り入れている。 また個々に合わせ、その時の状況により支援できるように心掛けており、今後もニーズに対応できるよう社会資源を活用し柔軟な支援、サービスに取り組んでいきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園でのお花見、町内会の総会、保育所等の行事に参加させていただいていたがコロナ禍のため、交流が難しい状況であった。地藏盆や町会の催しに参加する等、少しずつではあるが以前のように交流する機会も増えてきている。引き続き感染対策にも注意し支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは、家族様の同意の上で月/2回の往診して頂いている。急変時には、直ぐに連絡が取れる体制となっており、グループラインでのやり取りや、リモートでの往診も適宜行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で、入居者様の少しの変化や気になること等、心身の状況を報告してから診ていただき、体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報を提供し、医療関係者との連携に努めている。入院中には、(コロナ禍のため)電話等でご本人様の様子を確認したり、退院時には、ご家族様も交えてカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合や終末期の支援については時間を充分にとり一通り説明させて頂き同意を得ている。また、終末期と主治医が判断した際には病院へ搬送するのかホームで看取るのかをご本人の想いに寄り添い、家族様、主治医、職員、介護支援専門員、管理者で話し合い方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開き、急変や事故発生時の初期対応について座学および訓練を行っている。月1回全体会議でフロアごとの事故報告を行い、職員間で検証し再発防止に努めている。何度も繰り返し行っていくことで全職員が実践力を身に付けられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練においては教養型と実践型訓練を行っている。地震、台風などの災害においては、避難場所、避難経路は確認している。ビデオ視聴や机上シミュレーション訓練を定期的に行い、実際災害が起きた時に慌てず入居者を安全に避難させることを優先に取り組んでいる。今後は地域との共同訓練も視野に入れ実践力を養う必要がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の過ごされてきた環境や性格、現状を踏まえ、その人らしく過ごして頂けるよう言葉かけや対応に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様のその日の状況を見て声掛けをし、自己決定できるよう働きかけている。上手く言葉にできない方には、分かりやすい質問、仕草や表情から汲み取れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれのペースで過ごして頂けるよう、ひとり一人の行えることを大切にし対応している。職員本位なケアにならないよう心掛けている。 また、他入居者様とも関わりが持てるよう自由に各フロアへ行き来して頂き交流が持てるように工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している方は、自由にして頂いているが、一緒に選ぶこともある。ドライヤー・ブラシをセットしている。出来ない方には、ある程度、色・柄等を把握した上で支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、なかなか一緒には出来ない状況ではあるが、できることについてはご負担にならない程度に盛り付けやテーブル拭き等して頂いている。片付けについては、その日のご様子で下膳や食器洗いもして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調や嚥下状態等に合わせ、ミキサー食・刻み・とろみを使用し、バランス良く栄養が摂れるよう工夫している。また、摂取量が少ない方についてはご家族様や主治医に相談し、栄養補助食品等で確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回、歯科往診にて口腔ケアしていただいております。毎食後の口腔ケアは職員が行っている。日々のケアについては、歯科往診時に個別にてアドバイス等を受け支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々でタイミングやパターンが異なるため、排泄表を利用し、声掛けやトイレ誘導をし、支援に努めている。また、歩行困難な方でも定期的にトイレ誘導することで排泄の促しに努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせて、飲食物の工夫や腹部のマッサージ、ホットタオルで温める、運動（歩く・体操）等、排泄の促しに努めている。また、週二回の訪問看護にてアドバイスを受け支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回の入浴を提供していますが、その日の心身の状態等に合わせて支援している。また、体調等にて入浴ができない時には、手浴・足浴等の部分浴や清拭を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の睡眠のペースを把握し、その日の心身の状態にあわせて休息やフロアで過ごして頂いている。季節や温度調整・換気には気を付けている。 また、昼夜逆転等不眠に繋がらないよう声掛けやフロアソファで休んで頂くなど思いに沿えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の介護日誌には、薬情を入れ内容確認が出来るようにし、効能や副作用の理解に努めている。処方の変更時には申し送りノートにて周知徹底し、症状が安定するまではバイタル測定、食事・水分摂取量等、別紙に記録し主治医への申し送りに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム全体での行事や外出は、現状まだ控えているが、各フロアで行う個々の誕生日会などの催している。また日々の役割(洗濯物をたたむ、自室の掃除等)、カラオケ大会、季節行事等、少しでも楽しみに繋がるよう支援に努めている。。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば近くへの買いものや家族様等との外出ができるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する機会があるときには、個々の能力に応じて、ご本人様に持って頂き、支払いもして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月1回の「お便り」を送付している。また、ご本人様、ご家族様の要望があるときには、その都度、電話の取次ぎやビデオ通話等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が混乱せず過ごして頂けるよう表示等をし、安心できるよう努めている。フロアには、入居者様と一緒に作成した飾りや絵等で季節を感じて頂けるような工夫を心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士、お話ができるよう座席の工夫や馴染みのあるソファで過ごして頂けるよう等、思い思いに過ごして頂けるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や家族写真やプレゼント等を飾り、これまでの空間に少しでも近づけるようご家族様に相談やレイアウトの工夫をすることで、心地よく過ごして頂けるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、居室の表札、浴室・トイレの表示・説明等、個々の「できること」「わかること」に配慮し、安全・安心して過ごせて頂けるような環境作りに努めている。居室内は、個々に合わせてタンスの配置やベッド、動線の確保に努めている。		